

第二言語習得における英語教育

～タイ国研修を終えて～

武井輝彦

1 はじめに

日本の中学、高等学校で英語の授業をチームティーチングで行うようになって久しいが、同じアジアにあるタイでのチームティーチングの歴史は浅く、殆どの公立学校ではネイティブスピーカーすらいらないというのが現状である。近年、タイでは日本企業の進出による日本語熱とともに実用英語教育への需要も高まっている。日本でも平成6年度からオーラルコミュニケーションが導入されたように、企業からの要請もあり、文部省も発信型の使える英語教育に力を入れ出したのである。

さて、私が参加したタイ国研修は平成6年に初めて小田原市にある国際的な教育団体であるL I O J (Language Institute of Japan) が企画したもので、日本人とタイ人の英語教師がチームティーチングをすることによってお互いの英語教育における教授法のスキルを向上させるだけでなく、相手国の文化・習慣を学び、日タイ間の国際理解が促進されるよう計画されたものである。

2 研修目的

本研修の目的は、L I O Jで、このプログラムを担当しているジム・ケニー氏が述べているように「英語を母国語としない教師が共同して教えることにより、情報・意見交換のできる機会を持つことにある。」のだが、国際理解という観点からすると従来の欧米中心の英語教育から脱皮し、日本独自の英語教育を模索することも大きな目的の一つである。今年度から導入されたオーラル・コミュニケーションの活性化をはかる為に、第二言語習得におけるオーラル・コミュニケーションの研究も英語という枠を越えてなされなければならない。

3 研修概要

この研修は、母国での2日間の研修を経て、現地で12日間、タイのセカンダリー・スクール（中高一貫の学校が多く、週5日制を採用している。）で、タイの英語教師とチーム・ティーチングを体験することにより、英語を母国語としない教師同士が、お互いの英語教育体験に基づくアイデアを共有しあい、相互理解を深めることによって、両国の英語教育の発展と国際親善に寄与することを目的としている。この研修の特徴は、帰国後、現地の学校で指導を受けた先生をホームステイさせながら、日本の生活文化を教育現場を通して体験してもらうところにある。日本の先生が、タイ文化の中で生活し、タイ人の物の考え方を学ぶように、タイの先生も日本人と同様に、日本の生活を体験し、日本文化に触れることによって、日本の実態を視察することが求められている。

事前研修では簡単なタイ語・タイ文化の講義を受けるが、独自に相手国の政治、経済、歴史を学

んでおけば、現地で英語を教える際により効果的であろうと思われる。また、この研修プログラムで特筆すべき点は、日本人はタイの英語の先生の家庭に、タイの先生は日本の先生の家庭にホームステイすることである。短期間ではあるが、現地の家庭に住んで、そこから現地の学校へ教えに行くという生活をするのである。私も少しカルチャー・ショックを受けたものの、タイの中高生に英語で英語を教えることを実践できたことに満足し、この機会を与えて下さった学園に心から感謝している。また、10月にはタイで長年、英語教育に携わってきたラヨン・ウイッタヤコムスクールの外国語科主任であるワナラ先生を聖ヨゼフ学園にお招きし、中高生に英語によるティーム・ティーチングだけでなく、タイ語やタイ文化を教えていただいたことで、国際理解教育が少しは推進されたのではないかと考えている。

4 研修内容

- 8月14日(日) 小田原LIOJにてオリエンテーション
タイ語、タイ・カルチャー、ティーム・ティーチングの講義
- 15日(月) オリエンテーション2日目
タイ語、タイの風俗、習慣 ティーム・ティーチング、外国での適応の仕方、カルチャー ショックの避け方についての講義
- 16日(火) タイに向けて出発 空港到着後、タイレストランにて歓迎夕食会
シーナカリン教育大学の寮に宿泊
- 17日(水) ホームステイ先であるラヨン市にむけて出発
研修校であるウイッタヤコム・セカンダリースクール訪問
外国語科主任のウエルカム・パーティーに出席
- 18日(木) 朝礼前に校長、副校長に紹介される
8:00 グランドにて朝礼 国歌斉唱 国旗掲揚 仏教の祈り
責任、勤勉、敬愛のスローガンを唱えて一日が始まる
ワナラ先生に紹介を受けた後、タイ語と英語で挨拶
中2にワナラ先生とティーム・ティーチング
テキストは Discoveries (Oxford)
- 19日(金) ジム・ケニー氏とシーナカリン教育大学教授が公開授業見学
中2に英語と日本文化を教える(ケン玉、ジェンカ、日本地理等)
- 20日(土) 休日 ホストファミリーとパタヤに行く
ワット(寺院)、ワニ園訪問
- 8月21日(日) ホストファミリーとコー・サメット島に行く
- 22日(月) サイエンス・デー 周辺の数校から生徒が理科の作品を展示する為に来校
中3に日本語、日本の歌を教える

- 23日(火) ワナラ先生と中2にティーム・ティーチング
 会話を通して動詞の過去形を教える
 高1、高2の日本文化講座
 中学生のタイダンス(民族舞踊)の授業を見学
 高3の英語の授業見学(“El condor pasa”〈コンドルは飛んでゆく〉を生徒と歌いながら、would rather 表現を教えていた。選択 LL の授業を見学(LLの機種は古いが、リスニング指導は、ゆき届いていた。)
- 24日(水) 学校に行く予定であったが、急拠、アユタヤ見学に変更
 アユタヤ王朝の遺跡などを見学
- 25日(木) 学校訪問最終日
 朝礼時、日本からのAFS留学生のスピーチの後、タイ語と英語でサヨナラスピーチをする。高3生に日本の地図を見せながら、日本地理、日本文化、日本の歌、ケン玉などを教える。
 高1の生徒達とタイ・ポップに親しむ
 生徒達の日本のハイテク産業に対する関心は高い。
- 26日(金) バンコクへむけて出発
 創立109年というバンコクでも進学校として知られる公立校を訪問。
 夕方、バンコク市内の渋滞を避けて国鉄でタイ国際空港にむかう。
 帰国前に、空港のレストランで10月に日本に英語を教えに来るタイのセカンダリースクールの先生、シーナカリン教育大学の教授と夕食。
- 27日(土) 午前7時20分、帰国。

プログラム・コーディネーター：Mr.Jim Kahny

アジアセンターLIOJ勤務。日タイ・ティーム・ティーチング・プログラム コーディネーター。

小田原市内の中学校でAETとして活躍。毎年、LIOJが主催する語学教師の為の英語による宿泊研修講座を担当。小田原市在中。

研修先住所：Taksinmahavach Road Umphure Muang, Rayong 21000

滞在先住所：004 Kangumphuye Umphure Muang rayong 21000

~~~~この研修報告を終えるにあたり、私が実際に教えた生徒からのメッセージと、  
学校訪問最終日の朝礼で行ったサヨナラ・スピーチを載せておきたい。~~~~

To……

Teruhiko Takei

From……

Kamonrat, Vuntanee, Naulnit

We are very happy to study with you. At first, we're a afraid when Acharn Wanarat told us there will be a teacher from Japan. We didn't wanted you but when you taught us, we were very glad because you were kind and friendly. I understood what you said because you spoke slowly and clarly.

Thank you very much for taught. We hope you have a good trip black to Japan and I'm looking forward to seeing you come here again soon.

(注) 文中、スペリング、文法等で、誤りがあるが、タイの中学2年生の書く英語力を知る上で、良い参考となるので敢えて原文のまま載せた。

\* サヨナラ スピーチ

サワディー クラップ。(皆さん、おはようございます。)

サバイデールー? (今日は元気ですか。)

ディーチャイティーダアイ クウイカアン。(皆さんとお話しできて楽しかったです。)

コツプクンマアーク テーチュウイルウア。(ご親切にありがとうございました。)

ラエウポツプカアンマアイナ。(またお会いしましょう。)

ラーコン ナ クラップ。(ありがとう。さようなら。)

Thank you very much for your kind attention. This was my short visit to your school, but I enjoyed staying here very much. I liked and respected all of you. You were wonderful and your teachers were excellent. I love this country, Thailand, so please respect your parents and teachers. If I have a chance to come back again, I will be happy.

Thank you. Arigato. Sayonara.

## 5 研修所見

現地滞在、12日間という短い期間ではあったが、その意義は大きかったと思う。チーム・ティーチング、カルチャークラスともに準備不十分であったため、大きな成果はあげ得なかったが、タイ人の家庭に滞在し、タイ語しか通じない生活の中で、英語をコミュニケーション手段として、現地の人びと、とりわけラヨン・ウィッタヤコム スクールの先生方や生徒達と不十分ながらも意志の疎通をはかれたことは望外の喜びであった。日タイ間の歴史上の交流は長いが、お互いに国情を正確に把握しているとは言い難い。実際、私もタイへ行く前と、タイから帰ってきてからでは、タイに対するイメージに大きな差があるといえる。日本が経済的に優位であり、英語教育の歴史も長いことから、タイから学ぶことは余りないのではないかという不遜な気持ちが全くなかったといえは嘘になるであろう。一年中、暑いために国民は勤勉ではない、工業の面では30年以上、遅れている、貧富の差が激しい、エイズが流行しているといった先入観だけでタイという歴史と伝統のある国を

表面的に判断するのは誤りである。確かにタイは今、工業化を急いでいる発展途上の国である。それだけに日本はアジア諸国の中では目標とされている国であり、若者にとって日本は憧れの国であり続けるのかもしれない。しかし、タイ国にとっては仏教と農業といった伝統的な基盤に則った国政がなされるのがよいとされている。たとえ交通渋滞のひどいバンコク市内に地下鉄が走ることもなくとも、あのタイ人独特のスマイルと仏教の教えに対する敬虔な信仰心が失われぬ限り、タイ人のアイデンティティーは保たれるだろう。こと教育に関して言えば、親、教師を敬い、目的意識をもって勉学に励んでいるタイの子供達は日本の子供達より数段、貧しいかもしれないが心は豊かなのではないかと思う。

研修校：Rayongwittayakom Secondary School

中高一貫の公立校、男女共学で生徒数、約3,400、仏教理念を基本とし、責任感、勤勉、敬愛の心を持つ子供の育成をモットーとしている。外国語科教員26名中、フランス語担当2名。

指導教官：Mrs. Wananrat Nantrajit

タイ国 シーナカリン教育大学大学院にて言語学修士課程修了。

教員歴 19年。ラヨン ウイツタヤコム スクール外国語科主任。高校生を教えること多かったが、現在は学校の要請で、オーラル・コミュニケーションに力を入れる為、中学2年生の英語を担当している。ラヨン市在住。

### Results of the Students' Evaluation on Thailand / Japan Team Teaching Exchange (1994)

#### 1. Did you enjoy having a Thai teacher and a Japanese teacher together in class?

| School | #students | Very much | Moderately | Not very much | Not at all | No answer |
|--------|-----------|-----------|------------|---------------|------------|-----------|
| Rayong | 112       | 33.04%    | 56.25%     | 8.04%         | 1.79%      | 0.88%     |
| Total  | 372       | 55.68%    | 40.15%     | 3.50%         | 0.44%      | 0.22%     |

#### 2. How much did you understand in class?

| School | #students | 0-25% | 25-50% | 50-75% | 75-90% | 90-100% |
|--------|-----------|-------|--------|--------|--------|---------|
| Rayong | 112       | 2.68% | 19.64% | 42.86% | 32.14% | 2.68%   |
| Total  | 372       | 1.91% | 20.34% | 37.73% | 29.46% | 5.30%   |

#### 3. As a result of team teaching class, do you see the need of studying English more?

| Shool  | #students | Yes    | No    |
|--------|-----------|--------|-------|
| Rayong | 112       | 99.11% | 0.89% |
| Total  | 372       | 97.85% | 2.14% |



4. As a result of team teaching class, do you feel more comfortable around non-Thai people?

| School | #students | Yes    | No     |
|--------|-----------|--------|--------|
| Rayong | 112       | 71.43% | 28.57% |
| Total  | 372       | 84.37% | 15.63% |

5. Did team teaching increase your awareness of Thai and Japanese culture?

| School | #students | Very much | Moderately | Not very much | Not at all |
|--------|-----------|-----------|------------|---------------|------------|
| Rayong | 112       | 22.32%    | 57.14%     | 13.39%        | 7.14%      |
| Total  | 372       | 40.79%    | 50.16%     | 7.06%         | 1.99%      |

6. Would you like to have more team teaching classes next year?

| School | #students | Yes    | No    | No answer |
|--------|-----------|--------|-------|-----------|
| Rayong | 112       | 89.29% | 9.82% | 0.88%     |
| Total  | 372       | 95.66% | 4.12% | 0.22%     |

7. Did you enjoy trying to communicate with your teacher and classmates in English during team teaching classes?

| School | #students | Very much | Moderately | Not very much | Not at all |
|--------|-----------|-----------|------------|---------------|------------|
| Rayong | 112       | 30.36%    | 61.61%     | 5.36%         | 2.68%      |
| Total  | 372       | 48.97%    | 46.99%     | 3.16%         | 0.88%      |

8. Was it helpful when the two teachers modeled English communication?

| School | #students | More helpful | Neutral | Less helpful | No answer |
|--------|-----------|--------------|---------|--------------|-----------|
| Rayong | 112       | 39.29%       | 55.36%  | 3.57%        | 1.78%     |
| Total  | 372       | 72.88%       | 24.34%  | 1.96%        | 0.82%     |

9. Other comments: (Composite school results ranked according to frequency of answers)

(75) Have foreign teachers from different countries to teach English often.

(17) Have more team teaching classes.

(16) The Japanese teacher should stay longer.

(7) Have Japanese exchange students.

(6) Have a female exchange teacher.

(5) Have more Japanese language and cultural activities.

(3) Have language and cultural activities outside of class.

(3) The Japanese teacher should come back.

(2) Have more activities in team teaching class.

(2) Learn Japanese.

(1) Teach Thai to the Japanese teacher.

- (1) Have more than one Japanese teacher at a time.
- (1) Join in a language and cultural camp.
- (1) The Japanese teacher should speak louder, more slowly, and repeat some difficult explanations.
- (1) The Thai teacher should translate difficult words during team teaching.

## 6 アンケート結果分析

このアンケートは、私が教えたラヨン市にあるウイッタヤコム・スクールと、この研修に参加した他2名の日本人がバンコクと北部のランパーンで教えた学校の生徒372名からのアンケートである。

1の「あなたはタイの先生と日本の先生が授業で一緒に教えることに満足しましたか。」という問いには約56%の生徒が満足したと答えており、全く満足しなかったと答えた生徒は、わずか4%で、他の生徒達はティーム・ティーチングに慣れていなかったり、英語が聞きとれないことから、十分な満足感が得られなかったものと思われる。

2の「どのくらい授業を理解しましたか」という問いには50%から75%が、約38%。75%から90%が約29%で、わずか5.3%の生徒が90%以上理解したと答えている。これは半数以上の生徒はなんとか英語によるティーム・ティーチングに取りくめるが、ほぼ完全に理解できる生徒は限られていることを示している。これはヨゼフ学園で行ったアンケートでも同じような結果がでている。

3の「ティーム・ティーチングの授業を受けて英語の勉強の必要性を感じたか」という問いに対しては、ほぼ98%の生徒が、その必要性があると答えている。

4のティーム・ティーチングで、タイ人でない先生が身近にいることについては、約84%の生徒が歓迎している。

5のティーム・ティーチングがタイと日本の文化に対する認識を増大させたか」という問いについては、約41%の生徒が増大させたと答えているが、逆に9%の以上の生徒は否定的な答えをしている。これは10日間ぐらゐの授業では無理からぬことなのかもしれない。

6の「来年は、もっとティーム・ティーチングの授業を受けたいか」という問いには、約96%の生徒が受けてみたいと望んでいる。

7の「あなたはティーム・ティーチングの授業で、先生やクラスメイト達と積極的にコミュニケーションをしようと思いましたか」という問いには約半数の生徒は試みたと答え、全くといっていい



ほど反応を示さなかったのは5%に満たなかった。

8の「二人の先生が英語のコミュニケーションをモデルとして演じたことは、役に立ちましたか。」という問いに対しては、約73%の生徒が役に立ったと答えている。

9では、さまざまなコメントが挙げられているが、主な3点としては、さまざまな国から、もっと頻繁に来てほしい。もっとチーム・ティーチングをしてほしい。日本人の先生は、もっと長くいるべきだ。という3点が挙げられている。

## 7 タイにおける教育事情

近年、タイの教育で最も大きな課題の一つになっているのが、中学教育の義務化である。現在、タイでは小学校までが義務教育であり、グラフにみられるように、中学校へは41.4%、高等学校へは23.6%、大学への進学率は、やっと10%といったところである。従って、大学への進学は極めて厳しく、タイでは、大学出は、まだまだエリートである。

英語教育の観点からすると、英語は大学受験では必須科目であり、出題される内容は、日本と同様に、英語の読解力に重点が置かれている。但し、大学では、原書をテキストとし、英語で授業が行われることも多いことから、小学校段階から、オーラルコミュニケーションをベースとして授業がなされているのは注目に値するだろう。

|      |          |      |
|------|----------|------|
| 37.7 | 大学<br>短大 | 10   |
| 95.4 | 高等学校     | 23.6 |
| 100  | 中学生      | 41.4 |
| 100  | 小学生      | 93.7 |

レベル別就学率(進学率)の日タイ比較(1991年)



タイで英語を学ぶ中学生たち  
(ラヨン・ウィッタヤコムスクールにて)

## 8 ティーム・ティーチングとこれからの英語教育

JETプログラムが導入されてから大部、年月が経つが、最初はこのプログラムもアメリカ、イギリス、カナダといった欧米圏からだけのプログラムであったが、現在では中国などアジア諸国からの派遣教員もおり、ALT (Assistant Language Teacher) と呼ばれている。

実をいうと、このプログラムは、生徒の為ではあるが、同時に我われ英語教員のスピーキング能力の向上の為に派遣されたと聞いている。それほどまでに英語教員自らが英語を話すことが求められてきたのである。

大昔のことで、恐縮だが、私が外国人のための日本語学校に勤務していたころ、その学校の教頭に、英語の先生になるのは大変だね。私にはとてもできない。といわれたことがある。その先生は、滞米生活20年以上で、英語の読み書きはもちろん、会話もペラペラなのである。しばらくその先生のおっしゃる意味がよくわからずにいたのだが、その先生がしみじみとおっしゃるには、だって、日本語は母国語だから教えられるというのである。もちろん、外国人に日本語を教える場合でも、日本語の読み書きができ、会話ができれば、教えられるというものではない。日本語文法を理解し、日本の政治、経済、歴史、文学にいたるまで、日本文化を教えられる教養が必要とされるのである。つまり、その先生がおっしゃったのは、日本語で英文法や、和訳の方法を教えることはできても、英語で、ネイティブ・スピーカーのように教えるのは難しいということであることが分かったのである。正直に言って、これは大判の日本で育った教師には難しいことなのである。明治以来、日本の英語教育は、欧米に追いつき追いこせという視点から、技術、文化輸入の為に受容型の英語教育、すなわち、西洋の文献を読めればよいという状態であった。従って、英語の授業は文法、訳読を教えればよく、会話をしたり、自分の意見を述べるといった発信型のコミュニケーションは必要なかったのである。

ところが、近年とみに国際化がすすみ、日本の経済力が増してくると、英語で会話し、英語で表現する能力が求められるようになったのである。にもかかわらず、受験英語（高校、大学の入試に出題される英語）が相変わらず、明治以来の文法や英文和訳が主流を占めているのはどうしたことだろうか。これでは、学校の授業が従来の文法訳読式の授業から脱皮するのは難しいだろう。

そんな意味で、今回、私が参加したタイでのティーム・ティーチング プログラムは、お互いに母国語であるタイ語と日本語を使わず、共通語として英語を使わざるをえないという点で大変意義深かったと思う。タイも日本と同様、植民地化された歴史がなく、英語が話せなければ生きていけないという環境に置かれていない。両国ともオーラル・コミュニケーションとしての英語教育という点では、後進国であるが、生徒たちが英語を勉強して少しでも英語を話せるようになりたいという願いは共通であると感じた。我われ英語教師も生徒たちが話せるようになる為に、教師自らが授業で英語を多用するよう心がけるべきであろう。

### 参考文献

- \*第二言語習得研究に基づく最新の英語教育 (SLA研究会編、小池生夫監修)
- \*Team-Teaching Together A Bilingual Resource Handbook For JTEs and AETs (Todd Jay Leonard 大修館)
- \*アジア読本 タイ (小野澤 正喜編)